

院外茶話

vol.141 平成 29 年 2 月 1 日

名乗りをあげた攻撃

それが野球

影を潜めた攻撃

それがサッカー

日本野球 人気の秘密



家電と言うより家具。

夏休みにはセミをとって川遊びをして、路地の片隅ではおはじきにベーゴマ。

正月は羽根つき、凧揚げ、百人一首。どれも一通りはやった。子供の頃の遊びはいくらも思いつくけれど、当時の大人はいったい何をしていたのか。

映画や芝居見物といっても、度々でかけるほど豊かな時代ではない。プロ野球の球場は大都会にしかないし、地味に日向ぼっこや散歩でもしていたかな。

年に1回やってくる相撲の見物と言えば、それは特別な行事で、マス席に座ってお茶屋が用意したご馳走を食べて、帰りには持ちきれないほどの土産を抱えて帰ってきた。

それくらい豪勢で、限られた人だけの娯楽だったけど、この問題を一気に解決したのがテレビ。茶の間にいながらにして、お笑い三人組やデン助劇場を見て、栃錦と若乃花の優勝決定

戦も見た。

プロ野球と言えば川上の赤バット、大下の青バットだったけど、カラーテレビがない時代だったから、黒バットと白バットでもよかったのではないかな。

何はともかく、人が野球場に行くのではなく、野球が茶の間にやってきたのである。

大晦日には大半の人が炬燵に入ってテレビは紅白歌合戦。美空ひばりとか春日八郎とか……。私の娘たちにこの話をする時、応仁の乱と同じ頃だと思っている。

特に熱狂したのが、東京オリンピックの女子バレーボール。ソ連との決勝戦で、金メダルを決めた最後の一球は、サウスポー宮本選手のサービスエースだったと思う。



記憶に輝くメダルでした。

こんなオリンピックは特別としても、夏の夜にサラリーマンが帰宅をすれば、浴衣に着替えて冷蔵庫からキンラガーを取り出して、テレビのスイッチをいれる。

目当てはもちろん野球のナイター中継。同点のまま9回の裏にテレビ中継が終わると、急いでラジオをつけたものだった。

野球人気はもの凄くて、空き地に子供たちが集まれば始まるのが野球。人数が足りなければ三角ベースボール。

憧れは巨人の長嶋で、少年野球のチームができると、半分くらいの子供は背番号に3をつけていた。

当時のサッカーはどういう扱いを受けていたか。古河電工、八幡製鉄。実業団チームが中心で野球に比べれば地味な存在だったけど、釜本、杉山、片山らを擁した日本チームがメキシコオリンピックで獲得したのは銅メダル。

この頃から、サッカーも少しずつ日の目を見ることになる。

やがてJリーグができて、テレビに映るサポーターの興奮ぶりは凄まじい。揃いの色のシャツを着て大きな旗を振って、若者は盛り上がっているけど、おじさんにはどうもピンとこないのです。

野球ならばダルビッシュ、大谷翔平といった若手の名前がすぐに浮かぶけど、私にとってサッカーはいまだにカズ。でも、あのカズダンスというのは長すぎていけない。周りの選手だってダンスが終わるのを、手持無沙汰に待っていたではないか。

ところが世界が夢中になるのは、野球よりもこのサッカー。それがどうして日本では野球なのか。

理由は日本独特の文化にあって、それは面と向かって名乗りをあげた勝負である。全く私の勝手な想像だけ。



この人の口上がすごい。

その名乗りとは何か。日本人なら誰でも知っているフーテンの寅さん。

私、生まれも育ちも東京葛飾柴又です。帝釈天で産湯を使い、姓は車、名は寅次郎、人呼んで風天の寅と発します。

これが任侠ならば

手前、生国は大日本帝国、日光 筑波 東北関東は吹き降ろし。

野州は宇都宮で御座います。稼業、縁持ちまして・・・

名乗りを上げて、素性をすっかり明かした

上で、わらじを脱ぐことになる。口承文化の名残でもあるまいが、きちんと名乗りを上げれば身分の証明にもなった。実際、昭和の始めまで、名乗りが行われていたけど、毎回これをやっていると時間がかかって仕方がない。最近は名刺の交換で済ませるようになった。

それはともかくスポーツといえは模擬の戦。かつて日本の戦は一對一で向かい合った武士の名乗りで始まった。

やあやあ 遠からん者は音にも聞け
近くば寄って目にも見よ
我こそは・・・

ここから先が長くて、名乗る前に話は先祖からの系譜を語るののでやられていない。

ただ、これも太平記の頃までの話で、当時は相手が名乗っている間に、矢を射ったりするのはルール違反であった。しかし、戦もいよいよ厳しくなって、奇襲作戦が始まると、悠長なことはしてられない。

元寇の時も日本の武士が名乗りをあげている間に、次々と矢に倒れてしまった。

こういう戦の名乗りはだいぶ簡略化されたけど、このセレモニーが現代に残っているのが野球なのです。サッカーにはこれがない。

イチローはまずストレッチをしてから打席に入ると、バットを2、3度くるくると回し、決まった動作で構えます。これこそ名乗りで、ピッチャーの目を見つめて、我こそはイチローだ、と言っている。

サッカーでおれは長友だ、アモーレなんて言っていたら、すぐさま大量点を奪われてしまうだろう。これが野球とサッカーの違い。



われこそはイチロー。

日本人が名刺の交換をしている限り、野球人気は衰えないのであります。